

令和 5 年度 東京都立調布北高等学校学校経営計画

1 目指す学校像

- (1) 自主自律 意図的・計画的な教育活動を組織的に実施します。その結果として、生徒の情意に火を灯す生徒主体の学校にします。優秀な生徒を導くのは教員集団であることを皆で共有し、生徒の自主自律の精神を育成していく学校にします。
- (2) 文武両道 学校行事や部活動で培われる力を重視して生徒の帰属意識を高めていきます。また、受験は補欠なき団体戦であることを指導し、帰属意識のある生徒同士がチームとして一体となって文武両道を実践する学校にします。今年度から従前と同じ規模で学校行事が実施できる見込みです。生徒の主体性を重視して、協働することで学校行事から達成感を実感できる学校にします。
- (3) 文理両眼 AI 時代に向けて全ての教科を学ぶ意義を生徒に指導していきます。探究学習も重視して指導します。その結果として、国公立大学合格者を増やしていく学校にします。将来を見据えて学力を幅広く伸ばさせる学校にします。
- (4) グッドトライ 新たなグローバル化の時代に逞しく生きていけるよう生徒に挑戦する気概を醸成していきます。失敗を恥じるのではなく、前向きに挑む姿勢を高く評価し、その姿勢を褒めて絶えず生徒を激励していく学校にします。

2 中期的目標と方策

- (1) 進学指導推進校として、校内予備校など新規事業を有効活用して、組織的な進路指導、学習指導を実現します。その成果として国公立大学の受験者数及び合格者数の増大と安定化を図っていきます。
- (2) 理数研究校として、文理を問わず、生徒の探究心を刺激するための取り組みを一層充実させ、将来科学技術等の分野で活躍できる人材を育成します。特に 1 年生・2 年生の「総合的な探究の時間」では高大接続も活用して探究学習に力点を置いて指導します。
- (3) 英語教育推進校として、英語 4 技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導等を実施し、生徒の「使える英語力」を向上させていきます。新たに始まるオンライン英会話なども有効活用して、グローバル人材の育成に向けて国際理解教育に実践的に取り組みます。
- (4) 観点別評価と一人 1 台端末の 2 年目を迎え、生徒が自分の頭で考える習慣を身に付けさせ、生徒が主体的に授業に参加することにより、生徒の成就感を高めさせていきます。また理解の進む生徒がいる一方で、理解に時間を要する生徒も存在します。このため課題・学習方法の複線化に取り組み、多様な生徒の学力向上に寄り添います。更に電気通信大学及び日本大学文理学部との高大接続を活用するなどして探究学習を軸とした外部連携にも力点を置きます。
- (5) ICT 機器を活用した教育活動を推進します。TEAMS や YouTube の活用及びクラッシー及びスタディサプリを活用した学習指導・進路指導を展開し、入学後の早い段階から生徒に高い目標を意識させ、将来にわたって自ら学ぶ意欲を持続発展させるためのキャリア教育の充実と定着を図ります。
- (6) 生徒の主体性を尊重した学校行事や部活動を奨励し、学業との両立を前提に、限られた時間の中で最大限の効果を発揮できるよう文武両道の推進を図ります。
- (7) 国際理解教育の推進により自国の文化および異文化を理解、尊重するとともに、国際人として社会貢

献できる人材を育成します。

- (8) 高校生として守るべきルールやマナーの関する生活指導や道徳教育を充実させるとともに、主権者教育を推進し、地域に係りながら、社会に貢献できる生徒の育成を図ります。
- (9) いじめ・体罰のない学校が実現するように、アンケートや聞き取りを実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努め、安全な学校で、自らの可能性に挑戦できる環境を整えます。また、SNSに関するマナー指導にも重点を置いて指導します。
- (10) 学校ホームページにより広報に力点を置いた情報発信を展開していきます。日常の教育活動等の情報を発信し、改築などの不安要素を克服して、本校の良さを理解いただき、入学希望者の増加を図ります。

3 数値目標

【学習指導の数値目標】

- (1) 生徒による授業評価で肯定率 88%を目指す。(前年 86%)
- (2) 英語推進校として G T E C (4 技能) について
 - 1 年【Basic】CEFR レベル B1 10%以上を目指す。(前年 8%)
 - 2 年【Advanced】CEFR レベル B1 15%以上を目指す。(前年 11%)
- (3) 読書習慣を育成し未読率 30%以下を目指す。(前年 31%)

【進路指導の数値目標】

- (1) 難関国立大学 2 名以上、国公立大学 3 5 名以上、早慶上理 3 0 名以上の合格者を目指す。(前年 0 名・39 名・17 名)
- (2) 大学入学共通テスト 5-7 型理系・5-8 型文系の受験者 60 名以上を目指す。(前年 60 名)
- (3) 大学入学共通テスト 5-7 型理系・5-8 型文系の平均点 650 点以上を目指す。(前年 574.3 点)
- (4) 長期休業期間の講習を、500 時間以上を目指す。(前年 262 時間)

【生活指導の数値目標】

- (1) 学年集会を分掌連携で開催し、生徒の情意を高める取り組みを実施していく。年間の学年集会 10 回を目指す。
- (2) 遅刻回数減少を目指し、1 クラスあたり遅刻ゼロの日を年間 50 回目指す。
- (3) 生徒が関わる重大事故ゼロを実現するとともに、自転車通学等の月間苦情ゼロの月数増加を目指す。

【保健指導の数値目標】

- (1) 生徒による授業評価で校内美化に取り組んでいるという肯定派の率 80%を目指す。(前年 68%)
- (2) 学校見学者のアンケートで校内美化に好感を抱く肯定派の率 85%を目指す。

【特別指導の数値目標】

- (1) 部活動参加率 90%以上を継続する。(前年 97%)
- (2) 学校評価アンケートにおける学校行事や部活動に対する肯定意見 80%以上を目指す。(前年 88%)
- (3) ガン教育などの新たな教育観点を意識した講演会を年 3 回以上実施する。

【地域連携・広報活動の数値目標】

- (1) 学校説明会を年2回開催、ミニ学校見学会等を30回以上開催して、中学校長会進路対策委員会発表の志望調査の倍率1.7倍を目指す。(前年1.4倍)
- (2) ホームページの更新を週4回以上行う。
- (3) 中部学校経営支援センター主催の中部フェスタ等の教育関連行事に年間5回以上出場する。

【学校経営・組織体制の数値目標】

- (1) 教科会を各学期3回以上実施する。
- (2) 服務事故防止研修を年3回実施する。
- (3) 予算のセンター執行率60%を目指す。(前年47%)